

解答	配点
問一 (ア) a 1 b 3 c 2 d 2 (イ) a 3 b 2 c 4 d 1 (ウ) 2	問一 (ウ) 4 点 他各 2 点 × 8 = 16 点
問二 (ア) 1 (イ) 2 (ウ) 4 (エ) 4 (オ) 1 (カ) 3	問二 各 4 点 × 6 = 24 点
問三 (ア) 2 (イ) 3 (ウ) 4 (エ) 4 (オ) 1 (カ) 3 (キ) 4 (ク) 1 (ケ) 2	問三 (ア)～(ウ) 各 2 点 × 3 = 6 点 他各 4 点 × 6 = 24 点
問四 (ア) 3 (イ) 1 (ウ) 4 (エ) 3	問四 各 4 点 × 4 = 16 点
問五 (ア) 2 (イ) (地産地消を浸透させるためには、) 多様な方法で消費者に情報を伝え、生産者と消費者の結び付きを強めていく (が必要です。)	問五 (ア) 4 点 (イ) 6 点

【解説】

問一 (イ) a 「清涼」、b 「琴線」、c 「踏襲」、d 「勤める」。

問二 (ア) 「大きな力に引き寄せられるように」近づいて来た「あたし」に「やってみる？」と言っていることに着目する。

(エ) ダブルダッチをやってみた「あたし」は、思いもよらない「高揚感」を味わっている。

(カ) 長い時間跳べるようになった「あたし」は、高揚感を抱き、自転車をとばすよりも爽快に感じているが、その一方で、ダブルダッチを一緒にやろうという「玖美」の誘いには素直に応じず、「縄跳びなんて、くだらない」と思おうとしている。

問三 (エ) 例えば哲学などは、客観的な知の積み重ねではなく、「『自分の考え』を述べるだけで一向に話が積み上がらない」ように見えるため、「人文学は果たして『科学』なのか、という疑問」が出てくるのである。

(オ) 「ピア・レビュー形式」という「専門家によるチェック機能」があることで、「科学は信頼に足るという確信をより確かなものにしてくれ」るのである。

(カ) 通常科学では、実験の予測と結果が一致していなかったとしても、「パラダイム上の検討課題を増やすことにな」という意味では失敗でなく、「科学の『進歩』に貢献したものと見なされる」のである。

(キ) トーマス・クーンは、「『通常科学』が、あらかじめ設定された『答え』に辿り着くための努力である限りにおいて、それは『パズル解き』と同じだ」といっている。

(ケ) 筆者は、「通常科学」という「特殊な様態」がもたらす進歩について、「『答え』が与えられている問題を解くことは『進歩』といえるのでしょうか」と疑問を呈している。

【古文の通釈】

これも今は昔のことであるが、^{た だ の み つ な か}多田満仲のもとに荒々しくて悪党の家来がいた。生き物を殺すことを仕事にしていた。野原に出、山に入って鹿を狩り鳥を捕って、少しも善行をすることがない。ある時、外出し狩りをする間、馬を走らせて鹿を追う。矢をつがえ、弓を引いて、鹿のあとについて(馬を)走らせていく道に寺があった。その前を過ぎる時に、ちらりと目を向けたところ、(寺の)中に地蔵菩薩^{は ざつ}がお立ちになっている。(そこで)左の手で弓を取り、右の手で笠^{かさ}を脱いで、わずかばかりの信心を示して走り過ぎた。

その後何年もたたないうちに、(その家来は)病気になる、数日間非常に苦しんで、命が尽きた。あの世に行って、閻魔^{えん ま}の庁に呼び出された。見ると、多くの罪人が、(生前の)罪の軽重に応じてひどく責められ、処罰されているのがたいそう厳しい。自分の一生の罪業^{ざいごう}をずっと思っていると、涙が落ちてどうしようもない。

そのうちに、一人の僧が出てきて、おっしゃるには、「おまえを助けようと思っている。早く自分の生まれた世界に帰って、罪を悔い改めなさい」とおっしゃる。僧にお尋ね申し上げて言うには、「これはどういう人が、このようにおっしゃるのか」と。僧がお答えになるには、「私はおまえが鹿を追って寺の前を通り過ぎた時に、寺の中にあっておまえに見えた地蔵菩薩である。おまえの罪業は甚だしく深いといっても、わずかばかり私に信心を起こした功德によって、私は今おまえを助けようとするのである」とおっしゃったと思ったら(家来は)生き返った。その後は、生き物を殺すことをぶつとりとやめて、地蔵菩薩にお仕え申し上げたということだ。

採点基準

問五 (イ) 同旨可。“多様な方法で情報を伝える”“生産者と消費者の結び付きを強める”という内容が書かれていること。誤字・脱字、表現が適切でないものは減点。